

京のセントラルパーク、歴史と自然のストック  
京都御苑の魅力を発信

# 京都御苑



## NEWS

Kyoto Gyoen  
National Garden  
News

autumn

# 秋

第143号  
2019.9.1

京都御苑ニュース

### CONTENTS

- ▶京舞井上流と京都御所
- ▶御苑の植物の子育て戦略に学ぶ
- ▶御苑境界そぞろ歩き
- ▶学生コラム ー京都府立大学ー
- ▶Information



京都御苑、今出川御門。江戸時代、御門西側一帯は摂家である近衛家の敷地であった

毎年京の春を彩る祇園「都をどり」は明治維新後、天皇の東幸により衰退し始めた京都を復興させるための博覧会開催とともに始まった。「都をどり」を支える京舞井上流は、その創始において京都御所や御苑にあった近衛家と縁が深い。人間国宝であり、京舞井上流の井上八千代五世家元に話を伺った。

## 京舞井上流と京都御所

井上八千代

お恥かしいことながら、「京都御苑」という言葉を知ったのは大人になってからのことでございます。子供の頃は大方の京都の人と同じく「御所」と呼んでおりました。

幼い頃は母の実家に近いこともあり、丸太町に住む従姉妹にも会え、団栗拾いや球戯のできる楽しい遊び場でした。祇園に近く半商業地域の新門前に住む私にとって夢のような広大さで、祖父の家に行くことは、すなわち「御所」で遊べるかもうとう期待で胸をふくらませたものでございます。

それでも皇室にゆかりのある、やんごとなき場所ということは子供ながらわかってはおりました。京都の者にとって、歴史的認識は様々でも皆一様に、開かれた緑豊かな広大な場所としてあったと思います。

さて、私も京舞井上流と御所、御苑の関係は流祖である明和四年（一七六七）生まれの井上サトが近衛家ゆかりの方にお仕えし、仙洞御

所の女官がたにも舞のお手ほどきをしたことが始まりと伝えられています。サトは井上八千代と名乗り、後に姪の井上アヤに八千代の名を譲ります。初世、二世は金剛流能楽の影響も受け、御所風（堂上風）といわれる井上流の芸風を確立したようです。

二世の時代より祇園で舞の師匠をするようになりましたが、やがて時代は幕末、明治維新へと大きく移ります。遷都によりほとんどの公家方も東京へ移られ、御所周辺に多く

あった公家屋敷も空き家同然となり荒廃、京都自体も寂れてしまいました。明治四年京都府が設置され、知事に長谷信篤、参事に横村正直が着任し、京の伝統保存と近代都市建設に取り組みました。御所に天皇不在という核を失ったなか早速御苑整備を計り、御所、仙洞御所で博覧会を開催しました。しかし、これは余りにも急なことで成果が上がらず、満を持して翌明治五年「京都博覧社」を設立し、開催された「内国博覧会」に「附博覧」と称して様々なイベン

トを企画しました。なかでも祇園一方の九代目当主杉浦治郎右衛門が提案し、三世井上八千代（春子）を振付に起用した「都をどり」は好評を得ました。そしてこの成功により井上流は祇園との結びつきを深くしました。

御苑はその後、明治天皇の勅により次第に整備され京都人の憩いの場として今にいたっております。「都をどり」も明治、大正、昭和、平成の御代を経て令和となった今も毎年京都の春を彩っています。

「都をどり」の作詞者には冷泉為紀氏や国学者猪熊浅麻呂・兼繁氏等、御所関係の方々も多く「都をどりはヨイヤサー」の掛け声で知られる第一景「置歌（おきうた）」の場の背景が銀襖であることは井上流の京舞が御所で生まれたことの象徴ともいわれております。また、総ざらいのことを修礼（しゅらい）と呼びます。修礼は宮中行事などで予行練習という意味で使われる言葉です。ので、これも御所と関わりの深かった頃の名称かとも思われます。

御苑に伺いますと、ここは、京都に生きた人々の思いがあふれんばかりに詰まった場所という気がいたします。そこに立てば心は解放されますが、いつまでも背筋を伸ばして立っていたい。そんな空間が令和の御代にも身近にあることの有難さを感じております。

（人間国宝 京舞井上流 五世家元）



都をどりの錦絵（8枚続） 顔は当時の俳優の似顔絵

提供：祇園甲部歌舞会

## 草木や生きものが語りかけていること 〜未来を担う子どもたちへ〜

### 御苑の植物の子育て戦略に学ぶ

片山雅男



栄養たっぷりのアラカシのドングリ

紅葉や黄葉に彩られた御苑の秋。それは木々や草たちの冬支度の始まりの季節でもある。その賑わいの中で、多くの植物たちはその年の成果として、果実や種子を誇らしげに付けている。植物にとって果実や種子は、次の世代に命をつないでいく貴重な存在であり、その捻りのプロセスはまさに植物たちの子育てそのものなのである。

御苑の秋の捻りの代表格であるドングリの仲間を見てみよう。御苑の樹林には多くのブナ科の植物が暮らしていて、秋に

は殻斗果、通称ドングリを捻らせる。母樹の下に落ちていくドングリを割ってみると、堅い果皮の中に、茶色の薄い種皮に包まれた種子が入っている。種子はピーナッツのように二つに分かれていますが、この部分は発芽時に開く子葉にあたる。ドングリの母樹が、芽生えが周囲の植物との競争に少しでも有利なように、子葉に栄養物質であるデンプンを持たせたのである。ドングリは動物に連れ去られないように、落下後二週間ほどで発根し、土に固定される。子葉は果皮の中に保管されたまま、春になっても地上には現れない。母樹にとってのこの生前贈与は大仕事で、開花直後に枯れたり、大きくならない雌しべもあり。なお、クヌギやアベマキのドングリは開花した翌年に大きくなって結実する。夏に光合成で得られた「稼ぎ」を母樹がどのようにに分け与えるのかは、少子化の現代の日本人の有り様に似ていて興味深い。

これとは対照的に、新天地を求めて遠くまで種子を送り出す

## 学生コラム

### なしのき ゆかり 梨木神社と上田秋成の縁

京都府立大学院国文学中国文学専攻M2  
担当教員：藤原英城 森上亜希子

京都御苑の東側にたたずむ梨木神社は、九世紀に栄えた藤原良房の娘明子の里御所の跡で、京都の三名水の一つである「染井」が有名です。その参道の側に上田秋成の歌碑が建立されています。上田秋成は江戸中期の国学者、歌人、読本作家であり、梨木神社の東南にあった羽倉信美宅で没しました。秋成の代表作である『雨月物語』は中国の口語体小説を翻案した小説です。その中の「菊花の約」という話には、義兄弟の契りを結んだ二人が九月九日（重陽の節句）に再会の約束を誓う場面が描かれます。現代では桃や端午の節句が親しまれていますが、重陽の節句では宮中行事の一つに、杯に菊の花を浮かべた菊酒を酌み交わす風習がありました。今年の九月九日は秋成の小説を片手に菊酒を味わってはいかがでしょうか。



上田秋成歌碑



梨木神社社殿



有斐斎弘道館 入口露地



講座の様子

謝蕪村、長沢蘆雪らと親しく交わり書画会をプロデュースするなど、多くの文化人と親交を結びました。現在も建物と庭を未来につなぐため

「弘道館」とは学問所の意で、江戸時代には全国に見られました。中でも当時著名だった儒者・皆川淇園が一八〇六年に創設した弘道館は、全国から三千人の門弟が集ったとされる有名な場所でした。その址地に

## 御苑界限そでろ歩き — 現代の学問所・和の文化サロン — 有斐斎弘道館 濱崎加奈子

建てられた貴重な数寄屋建築と庭が二〇〇九年に取り壊しの危機に遭い、有志による保存活動によって解体を免れ、現代の学問所として再生を果たしたのが「有斐斎弘道館」です。皆川淇園は「開物学」という、

の活動は続いており、同時に、淇園の時代の「弘道館」にならない、日本文化の研究・教育機関として、また学問・芸術サロンとして、茶会や、文化や歴史を学ぶ講座、企業研修、能楽や香道などの伝統芸能を楽しむ講座を開催しています。

（公財）有斐斎弘道館代表理事・館長

■有斐斎弘道館

京都市上京区上長者町通新町東入

元土御門町524-1

「講座など催し物や見学のお問い合わせ」

電話：075-441-6662（10時～17時）

ホームページ：https://kodo-kan.com



有斐斎弘道館 庭園



遠くに届けニワウルシの翼果

ためにさまざまな工夫を凝らしている植物も見られる。典型的なものには種子を軽量化し、時には翼や毛を発達させる風散布種子がある。カエデの果実は雌しべの子房壁が発達して翼状になったもので、そのままでは真下に落ちるが、果実の中央で二つに割れると、種子の部分を中心に円弧を描いて落下する。滞空時間を長くし、風の力で遠方まで散布される仕掛けである。御苑で翼を持った種子を付ける植物にはアカマツやニワウルシがある。テイカカズラやセンニンソウなどの種子も特徴的な羽毛があって風で運ばれる。アセビやドウダンツツジは、種子を小さく軽くして風で運ばれるが、御苑の芝生のネジバナなどランの仲間には、種子を小さくし過ぎたために、親から貰った栄養だけでは発芽できず、地中に生息するラン菌から栄養をも



赤くておいしそうなおモチノキの液果

らって発芽する。

赤や青、紫や黄など色とりどりの果実は、多汁質や多肉質の果肉を持っていて液果と呼ばれる。鳥などに食べられて運ばれ、糞として排出されるものである。種子が熟す前に食べられるのは困るので、未熟な果実に渋味や毒を持たせたりするものもある。また、発芽抑制物質を含んだ果肉が、動物に食べられることで除去されるようにしているものもある。二重、三重に策をめぐらし、種子が遠くに散布されるように工夫している。

動物の体毛や羽毛に付着して運ばれるものには、鈎で付着するヌズビトハギやキンミズヒキ、刺状の冠毛で付着するセンダングサ、粘液を分泌するチジミザサやメナモミのようなものもある。親が子どもを幸せを願う姿は、人も植物も同じだと思うと感慨深い。

（京都自然観察学習会）神戸教育短期大学教授

■イベントのお知らせ

京都御所の通年公開

**公開日**：通年(事前申し込み不要/無料)  
ただし、下記は休みとなります。  
月曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12月28日～1月4日)  
行事等実施のため支障のある日  
**公開時間**：9月/9:00～15:50(最終退出は16:30)  
10～11月/9:00～15:20(最終退出は16:00)  
**入場門**：清所門  
**お問合せ**：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215



京都御所紫宸殿

京都仙洞御所の参観

事前申込に加えて当日受付も行われています。  
**当日受付**：京都仙洞御所にて11時頃から先着順に整理券を配布。(満員になり次第終了)  
**お問合せ**：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

京都迎賓館一般公開

日本の歴史・文化を象徴する京都で、海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくための国の迎賓施設です。  
**公開日**：迎賓館のホームページでご確認ください。  
**参観料金**：大人1,500～2,000円 大学生1,000～1,500円  
中高生500～700円  
**お問合せ**：迎賓館京都事務所 ☎075-223-2301



京都迎賓館 藤の間

京都御苑子ども「きのこ」教室

秋の御苑のきのこを親子で観察する子ども「きのこ」教室を今年も開催します。  
詳細については、協会ホームページをご覧ください。  
**日時**：令和元年11月17日(日) 10:00～12:00  
**お問合せ**：(一財)国民公園協会京都御苑

京都御苑秋の自然教室

**日時**：令和元年10月20日(日) 9:30～12:00  
**受付**：9:00～9:20  
**集合**：閑院宮邸跡前(御苑南西角 地下鉄丸太町 市バス烏丸丸太町徒歩5分)  
**講師**：京都自然観察学習会の先生方  
**内容**：秋の御苑の植物、キノコ、昆虫や野鳥の生態を観察します。  
**参加費**：100円(保険代)  
**主催**：環境省京都御苑管理事務所  
**運営**：(一財)国民公園協会京都御苑  
**その他**：筆記用具、雨具・水筒の準備、野外活動に適した服装でご参加ください。ルーペ、双眼鏡など観察用具があると便利です。  
\*当日7:00時点で気象警報が発令されている場合など、やむなく中止することがあります。



■苑内利用施設・サービスのご案内

閑院宮邸跡収納展示館

京都御苑南西角の旧閑院宮邸跡地に建つ公家屋敷の風格残る旧宮内省建物の遺構。収納展示室では京都御苑の歴史や自然を紹介しています。中庭を巡る回廊やレクチャーホールもあり、御苑マップや苑内の見どころなど旬の情報を提供しています。  
**開館時間**：9:00～16:30(入場は16:00まで)/無料  
**休館日**：月曜日(祝日は開館)、年末年始  
**ミニガイド**：11:00～、15:00～  
**アクセス**：間ノ町口すぐ(御苑南西角 地下鉄丸太町 市バス烏丸丸太町 徒歩5分)

拾翠亭(茶室)

五摂家の一つであった九條家の遺構で江戸時代後期に建てられた九條家別邸。  
**公開日**：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30～15:30 参観料 100円(高校生以上)  
**貸切利用**：茶会、句会、謡曲等の会合にご利用できます。利用料については協会ホームページをご覧ください。



ホトトギスと拾翠亭

休憩所(レストハウス・売店)

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御苑オリジナルのお土産物を多数揃えています。  
**中立売休憩所「京都御苑 檜垣茶寮」**  
営業時間：9:00～17:30(10月以降16:30まで)  
京都御所前に位置しており、御所参観へのアクセスは抜群です。セットメニューから軽食、カフェまで木の香る落ち着いた雰囲気の中でお食事ができます。売店『檜垣』では、御所限定のオリジナル商品を多数取り揃えています。KYOTO-WiFiも利用可能。



売店「京都御苑 檜垣」

御所の華弁当 右近の橋(要予約)  
**富小路休憩所**(御苑南東富小路口すぐ、テニスコート隣接) 軽食・喫茶にご利用ください。  
営業時間：9:00～16:30

駐車場

**料金**：乗用車800円(最初の3時間)  
以降30分毎100円  
バス2,000円(最初の3時間)  
以降1時間毎300円 \*夜間料金の設定あり。

中立売駐車場(乗用車、バス併用)

入場 7:40～19:30 出場 24時間  
(高さ2.3m以上の車両はバス料金となります)  
**清和院駐車場**(乗用車専用)  
入・出場 8:40～20:00(20:00以降閉鎖)

運動施設

**富小路テニスコート**(5面) 有料  
**富小路広場**(6面)/**今出川広場**(3面) 有料  
軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。  
**申し込み**：(一財)国民公園協会京都御苑



京都御苑Instagram/Twitterで最新の情報をチェック!



@kyotogyoen\_info



@gyoen\_info

会員募集(2019年度)のお知らせ

2019年度(2019年1月～12月)の国民公園協会京都御苑会員を募集します。  
■年会費  
●普通会員……………1,000円以上  
●賛助会員(会社・団体)……………10,000円以上

- 会員特典
- 1 京都御苑ニュースの送付
  - 2 葵祭及び時代祭の観覧席招待券の進呈(ただし普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
- 申し込み・お問合せ先  
(一財)国民公園協会京都御苑



編集後記

井上家元が子供の頃御苑でトンクリを拾った思い出を語られているが、御所・御苑界隈はトンクリに代表される様々なシーズ(種)の発祥の地になっているのかもしれない。御苑の樹木しかり、学問や芸術もしかり。令和の時代もその命を紡いでいきたい。(発行人 池田善一)

企画・発行/お問合せ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑  
〒602-0881 京都市上京区京都御苑3  
TEL 075-211-6364

編集

白川書院

監修

環境省京都御苑管理事務所



本誌発行にR70再生紙を使用しています